

## 硬式野球部 創部 24 年目で 第 62 回全日本大学野球選手権大会へ初出場!

吉備国際大学硬式野球部は、創部 24 年目にして、中国地区大学野球連盟一部リーグを初制覇し、中国地区大学野球連盟 21 校の代表として第 62 回全日本大学野球選手権大会に初出場を果たしました。

6 月 12 日に東京ドームで行われた同選手権 1 回戦に登場した吉備国際大学ナインは、首都大学野球連盟代表の日本体育大学と対戦しました。

初出場という緊張からか、初回守備の乱れによりランナーを許し、先取点を奪われました。しかし、その後はエースの佐原投手が粘り強いピッチングを続け、それに守備陣も応えました。打線も幾度とチャンスをつくるも、あと 1 本を出すことができませんでした。

結果、0 対 3 で惜しくも涙を飲んだ吉備国際大学ナインですが、夢の舞台であった全日本大学野球選手権大会に確かな足跡を刻み、元気よくハツラツとしたプレーは、観客に興奮と感動を与えてくれました。

現在、吉備国際大学ナインは、9 月に開幕する秋季リーグに向けて、連日練習に汗を流しています。リーグ連覇を目標に、立ち止まることなく進む選手たちに、どうか今後ともご声援をよろしくお願いたします。

▶ 硬式野球部ホームページ: <http://kibibaseball.jp/>



■問い合わせ 順正学園 入試広報室 (フリーダイヤル ☎0120-25-9944)

## 成羽病院通信

■問い合わせ ☎423111

### 大腸がん検診を受けましょう

成羽病院 内科医師 安井稔博

今回は大腸がんについてお話しします。大腸がんは日本では女性のがんの死亡率の 1 位を占め、2020 年には胃がんを追い越し、肺がんについて 2 番目に多くなると予想されています。

このように、大腸がんを発症する人が増えており、まずは検診を受けることが大切です。大腸がんの検診では便中に血液が混じるかどうかを見ます。簡便な検査ですが、がんが常に出血するとは限りません。このため、検診での 2 回の便検査のうち一度でも出血があれば大腸カメラによる精密検査を受けるべきだと考えられています。また、便の検査に異常がなくても、血のつながる人に大腸の病気がある人や、便が細くなったり急に便秘になったりなどの症状がある人は、大腸カメラを受けることをお勧めします。大腸がんは早めに見つけると治すことができる病気です。

気になる人は、お早めにかかりつけ医や医師へご相談ください。



○ 2011 年の死亡数が多い部位は順に

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	胃	膵臓	乳房
男女計	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓

データ: 人口動態統計によるがん死亡データ

あなたのためだけでなく  
大切な人のために  
がん検診を



# 地名

## 八十九 落合町 阿部

「阿部」は、高梁市落合町の大字地名で、昭和二九年高梁市の大字になりました。古くは川上郡近郷(室町時代)阿部村でした。高梁川と支流の成羽川の合流地点にあって、「あい」とか「あえ」などと呼ばれていて、「阿恵」「相」「合」などと書かれ、いずれも「落合」の意味を表す地域名なのです。

「阿部」という地名は、中世の戦国時代のものを慶長寛永の頃(一

五九六〜二六四三)に書写したといわれる「成羽八幡神社日記」(『県古文書集』)に「阿部・牟人の井上新九郎を討ち取った功として、阿部庄内田七郎左衛門尉の跡職を渡辺甚兵衛が新給として宛行われている」ことが天文三年(一五四四)三月のこととして、三村家親宛行状として記録が残っています。

また天正三年(一五七五)頃の「備中兵乱記」にも「毛利勢が陣地を白地(福地)へ移し、阿部・西の野(松原)の麦を残らず薙いだ」とあって、「阿部」の地名がみえています。

また天正六年(一五七八)尼子の武将山中鹿介が、毛利輝元がいる松山城へ護送される途中、毛利の家臣天野元明によって、「阿井の渡」で殺されたといわれる場所に、正徳三年(一七一三)銘の墓碑が残っています(現在、河川改修により西側に移されている)。江戸時代になると毛利の支配から幕府領、そして成羽藩領、松山藩領、幕府領、松山藩領と支配が移り変わり明治を迎えています。

「正保郷帳」(一六四五〜四六)では、石高七二六石余となっていて、松山藩領分では唯一の穀倉地帯でした。

「阿井の渡」の対岸には、松山東部の青木の番所(落合橋東詰)が

あった場所で、そこから渡し船で渡ると川湊(阿井の渡)があって、成羽往来が阿部市場から成羽藩との境の境谷へと通っていました。「阿部」は古くからの交通の要地だったのです。また、成羽川の河川交通も盛んで枝村だった小瀬や対岸の神崎には川湊があって、高瀬舟の船頭や問屋が多く、昭和の初めまで残っていました。

「阿部」は三つの地区に分けることができます。国道三二一三号から北側の緩斜面と井谷川より西の成羽川に沿った地域、そして国道より南の成羽川の氾濫原(阿部段丘面)に分けることができます。国道より南の平地は、以前から成羽川の河道だったところで、水田が多く穀倉地帯になっていました。現在では商工業地区として発展しています。

成羽川が洪水のたびに流れを変え、享保六年や昭和九年の洪水は大変だったといわれ、最近の昭和四七年の洪水では、新成羽川ダムの放流と重なり「阿部」付近の被害は大きく小瀬橋や神崎橋が流されています。成羽川下流にあたる「阿部」の東の地形は低く、市場地区は洪水被害が特にひどく、古くには成羽川が国道側を流れ、現在の山中鹿介の墓碑付近で、高梁川と合流していたのです(「阿部遺跡発掘調査資料」)。

江戸時代享保六年(一七二二)の大洪水の時には、「江国掃部略日記」(「吉備津社文書」)及び「吉備地方史の研究」(藤井駿)によると、「古今聞きも及ばぬ洪水前代未聞の事」とあり、「高梁川よりは成羽川の水多く、阿部村付近の成羽川の異常増水も激しかった」と、そして阿部村では、「藤井加右門の屋敷浸水、門長屋が流された」と記録され、以前からたびたび洪水に悩まされ川沿いの家が流失したり、軒まで水が来ることも多かったと伝えられています。

西の才原には、「正和二年(一一三三)一月日、敬白勸進沙弥総蓮」と刻した花崗岩製の延命地藏石仏があり、岡山県では二番目に古い県指定の文化財となっている貴重なものです。また、井谷川をさかのぼったところには、阿部深山城跡があり、付近には花山院御幸の伝説が残っていたり、備中兵乱で三村元親が隠れていたという、観音信仰の山である阿部深山があります。市場には御崎神社、山中鹿介の位牌を祭る観泉寺(曹洞宗)などがあります。

「阿部」という地名は、川の合流地点とか、かつての川の跡などの氾濫原の低湿地を表す地名で、あ(水)べ(辺)から生まれた自然地名なのです。

(文・松前俊洋さん)



北山から眺めた高梁川と成羽川の合流地点